



2_建物の復原と荻外荘

2-1_復原に関連する語句の整理：「復原/復元」・「保存」・「修理」

2-2_建物を保存するための制度の歴史と復原

2-3_文化財建造物の復原を伴う修理工事事例

2-4_復原の社会的意義



2-4_復原の社会的意義

社会的意義を述べる前に再度語句の確認

・ 建物の復原に求められるもの

①当初の姿に戻すこと

②より文化財として価値を有する姿に戻すこと

① 参考：太田博太郎「修理と復原」『重要文化財15建造物Ⅳ』付録、毎日新聞社、1974

② 参考：後藤治「保存・復原と近年の諸問題」『歴史的建造物の復元設計』

木造建築研究フォーラム第19回公開フォーラム資料、1992

- (1) 近衛内閣の政治活動が行われた場所
- (2) 近衛文麿最期の決断の場所
- (3) 荻窪のみどり豊かな屋敷地の景観が残されている場所

- (1) 伊東忠太設計の現存する邸宅建築としての価値
- (2) 建築資料的な価値
- (3) 建物自体が内方している価値

荻外荘の歴史的変遷

社会的意義を述べる前に復原する時期の再確認

居住者	期間	和暦	西暦	建物の履歴
入澤家	第Ⅰ期	昭和2年～5年	1927～30	創建。建物は昭和2年に上棟、竣工。
	第Ⅱ期	昭和5年～12年	1930～37	北側附属屋を改変。台所を増築。昭和12年近衛家に譲渡。
近衛文麿	第Ⅲ期	昭和12年～16年	1937～41	西側別棟と蔵、次の間を増築。（「荻外荘」と命名。）
				正門を西側に移築。
	第Ⅳ期	昭和16年～20年	1941～45	昭和18年頃に書斎・寝室・玄関等の改修。
近衛家	第Ⅳ期	昭和20年～35年	1945～60	
	第Ⅴ期	昭和35年～45年	1960～70	玄関・客間棟を豊島区に移築。北側に玄関を増築。
				西側別棟にも玄関を増築。
第Ⅵ期	昭和45年～	1970～	近衛家による荻外荘の改修	

荻外荘保存活用計画に基づき、この年代の状態に復原予定

2-4_復原の社会的意義

- ・ 「荻外荘復原・整備プロジェクト」は、荻窪会談等歴史的に重要な出来事が行われた時代の姿に建物を戻すものである（一部を除く）
- ・ 復原によって、場所や建築がもつ記憶を人々が追体験できるようになり、体験を通じて、より豊かな日常を実現していくことに大きな社会的意義がある。